



# 神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク

## 会報第8号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2000年9月24日号, No.8

### 第8号の目次

- 1、より身近な災害復旧支援 ~巻頭挨拶~
- 2、6月の各イベント参加レポート
  - 走ろう会ツーリングin 八ヶ岳 (2000/6/17~18)
  - 救護法勉強会(参加アンケートまとめ) (2000/6/24)
- 3、7月の各イベント参加レポート
  - 自衛隊富士学校被災地想定訓練 (2000/7/7~9)
  - ボランティアのための救護法研修会拡大版 (2000/7/20)
- 4、8月のイベント参加レポート
  - 川崎防災キャンプ物資搬送訓練 (2000/8/5)
  - 走ろう会ツーリング (2000/8/27)
- 5、会報担当より/お問い合わせは/広告

### より身近な災害復旧支援

事務局長 矢代幸雄



私たち、神奈川RBは震災時を想定した支援団体です。震災に限った活動を前提に訓練等を行ってきました。しかし最近震災に限らず活動が出来ることを多くのメンバーが証明してくれました。

有珠山噴火による被災地の子ども達に某テーマパークが用意して下さったキャラクターグッズをメンバーが届ける

#### 「真夏のサンタクロース作戦」

本当に笑顔を忘れかけたのは子ども達よりも有珠山噴火被災地の大人達だったかも知れない。そんな大人達が童心にかえり大騒ぎしたい気持ちを手伝わせていただいた

#### 「プロジェクトBoo/うすゆめファイナル」

復旧に向けて立ち上がった被災地の方々を微力ながら支援させていただいた

#### 「洞爺湖クリーン大作戦・火山灰除去作業」

有珠山噴火災害は地震こそともないますが主たる原因ではありません。更に栃木水害復旧支援活動をしているメンバーも居ます。

今回は、どの活動も一見個人参加のように見えますが実はそうではないと思います。

神奈川RBに所属していたからこそ現地の真の情報を得ることができ復旧支援に参加できたのでは？

現に各地で支援に参加しているメンバーは、「RBの ですよ」と名乗って活動に参加しています。

震災に対する訓練も必要ですが、今すでに起こっている災害に対する復旧支援もRBとして重要な活動ではないかと私は考えます。

### 6月の各イベント参加レポート

#### 6/17~18 走ろう会ツーリングin 八ヶ岳

報告: 神林邦彦

6月17日いつものように窓から空模様を眺めるが曇天。恐る恐るテレビの気象予報を見たら午後から雨。唯一の救いは北の方が若干降水確率が低いことであったが、大月近くで本降り状態になりやむなく大月ICから中央高速に乗った。長坂ICに到着後、私が先行して目的地の「おにがわら」へと進むが、途中曲がる所を間違えてしまった。



午後2時頃やっと「おにがわら」に到着。全員ズブ濡れ。

「おっ！店員さんのお出迎え」と思ったら入佐さん。全員到着後、「おにがわら」店主の中島さんの案内で着替えを済ませ一息入れる

がもう生ビールを飲みだしている輩も。どうせこの天気では何処にも行けない。さらにお風呂を頂き、談笑しながら時間をつぶすがなかなか時間が進まない！そんな中、中島さんも5時過ぎには仕度を始めそのまま例のごとく宴会に突入！待望のお好み焼き第一弾が焼き上がり次々とテーブルに並べられる。「美味い！絶品！」あちこちで絶賛の声。厨房では奥さんとお嬢さんもニコニコしながらも奮闘。



一段落して中島さんも話の仲間に入りご夫婦にRBから感謝状を贈呈した。そうこうしている内に総勢20名を超える大宴会に。

今回お借りした隣のログハウスは関西在住で絵の先生をなさ

ている正明さんのもので先生夫妻も当日たまたま関西から来られ、宴会にご一緒された。阪神淡路大震災に遭遇されご両親、ご兄弟を倒壊した瓦礫から救出出した経験もありだと言う事でまさにRBとしては貴重な体験談を聞くチャンスでしたがいかんせん人数が多すぎて纏まらずみすみす逃してしまった。……反省！

翌朝美味しい空気をたっぷり味わう。昨日の荒天が嘘のように快晴！小高い山に登り後を振り返るとナント南アルプス、富士山、秩父連山といった山並みが一望のもと絶景かな！夜には星がスゴイらしい、とても残念！朝食を摂りその後、居残り組、オンロード組、林道組に分かれ各々「おにがわら」をあとにした。

因みに居残り組は正明先生の体験談を聞けたらしい。

最後に「おにがわら」の御発展そして中島さんのご家族、正明先生ご夫妻、神奈川RBメンバーの健康をお祈りしてレポートを終わります。

## 6/24 救護法勉強会(参加アンケートまとめ)

報告：奥村和征

6月24日、えびな市民活動サポートセンターにて救護法勉強会が開催されました。以下参加者の感想をいくつかピックアップします。

・蘇生、三角巾と2グループに分かれたのでじっくり練習できた。「三角巾班」のほうで簡単な「シミュレーション」ができたのは良い経験となった(もっとやるべき?) <奥村>

・非常にざっくばらんな勉強会でとても良かったですと思います。2組に分かれて三角巾と蘇生法の両方を少人数で十分練習できたのがタメになった。田島さんの講話(ボランティアの心得についてなど)も毎回楽しめだし今回は特にたくさん話して下さいそうですね。<手塚>

・自分がここまで忘れていたのかと思わせる部分ともう体で覚えている部分がまだ混在しているのを認識させられた。「もしも」のとき早い処理ができるよう練習を重ねたい。最後のお話がすごく良かった。また、自分自身考えさせられた。「ものの見方」について色々考えたいと思った。<山本>

・2回目の救急講習でしたが1回目にはやったことは忘れてしまいました。やはり、定期的に練習しないといけないと感じた。<神林>

・「救急の考え方」を教えてもらいました。「傷ついている人主体で考える」大事なことだと痛感しました。マニュアルどおりにやれば良いってものではないのですね! <白井>

・自分が何もできない事がわかったのが収穫だった。蘇生法はモデル使ってやれたので実感できた。<太田>

・数をこなして繰り返し練習するのみですね。<矢代>

・子供連れ飛び入り参加でお騒がせしてしまい申し訳ありませんでした。又、途中参加の早退で大変失礼いたしました。救急法にはとても興味があったのですが、実際に人形で試してみるとキンチョーしてしまって全然できないものなのですね。もっともっと勉強して身に付けたいと思います。「気道の確保」だけで助かる場合もある、という一言にちょっと安心しました。

これならとさのときに私でも出来る気がしました。<奥村>

\*今後についての意見、注文等としては

「このような勉強会をまた開催して欲しい。」

という意見が多く、その他として

「小さい子を持つ親としてどんな知識を身に付ければ良いか?」

「傷病者に処置をする際の声のかけ方、接し方、逆にやってはいけないこと、言うてはいけないこと」を教えて欲しい。」

という意見がありました。

## 7月の各イベント参加レポート

### 7/7 ~9 自衛隊富士学校被災地想定訓練

報告：山本泰彦



静岡県のある神奈川RBとしては事前の準備段階から厚木の集合場所である加藤さん宅に集合することを考えていました。またそのとき近づいていた台風情報の収集や前

日から現地入りする隊員との連絡等をしていました。

7月8日(土) 刻々と台風情報が入ってくる中で風が収まってきた時点で出発するという事に決まり、出発しました。



10:00過ぎに現地到着後、訓練準備を済ませ11:00より訓練を開始しました。バイク隊はサポート隊と別ルートで道路状況等確認しながら前進、サポート隊は被災地と仮定した支部を目指し前進しました。バイク隊では途中道路封鎖、周辺地域の情報収集、小規模な火災に対する対処等を行いました。12:50に支部からの連絡でバイク隊は本部に向かい荷物を一人数十キログラム積んだ状態で支部まで悪戦苦闘。そんな中13:50頃支部にバイク隊が到着。支部に走行道路の状況、被災地(想定)での対応等を報告しました。14:30よりバ



イク隊は支部周辺道路状況調査に出発。携帯の電波も通じず連絡事項も伝えられない状況が続きました。16:00過ぎにバイク隊との連絡が取れるとバイク隊の状況を聞き本部からの情報を伝え、まず支部に戻ってくるよう指示。16:35頃バイク隊が支部に帰着。想定で震度6弱の余震の連絡がありバイク隊が出動。17:30に二次災害想定現場にバイク隊が到着し道路状況、被害状況を報告。その後、自衛隊側より訓練終了の指示があり本部帰還という流れになりました。宿舎に到着後、夕食の配食があり、外で食事が始まりました。



20:30から1時間ほど訓練を通じて感じたことを、バイク隊、サポート隊、本部それぞれについて、そして運営についての反省点、課題、意見が出されました。またこの反省会の中で、自衛隊偵察

教導隊で指導して頂いた各隊員に対して訓練内容、装具等に対する活発な質疑応答がありさらにアドバイスを頂きました。

7月9日(日)は宿舎の清掃等を行った後、普段自衛隊が行っているロープを使った傷病者搬送体験と、沼津RB園藤さん指導による救護法練習が行われました。11:30、訓練終了し、富士学校偵察隊の見送りの中、訓練会場を後にして最初の集合場所に戻りました。



9日昼、解散前にRBの集合場所にて記念撮影を行いました。

## 7/20 ボランティアのための救護法研修会拡大版



報告：白井美歩、写真：奥村和征  
皆がそれぞれなにやら語っている中を15分ほど遅れて研修室に入った。

1分もたたない内に、即席のペアに向かって「なぜ救護法を学ぼうかと思ったか?」「今日、何を学び

びにきたか?」等30秒以内で語ることから今回の研修は始まった。

研修参加者達は私のつたない語り的一生懸命耳を傾けてくれ、お互いうなずきあって疎通を確認しあったが、実際はどうなのだろう。

災害時しかも相手がまったく無関心の場合や反感をもたれていた場合はどうであろうか。

この経験は限られた時間の中でどれくらい意思疎通が可能なのかという問題に対してもっと深く考えるべきという課題を残した。

次に人口呼吸法実践。息を吹き込む量とタイミング心臓マッサージとのカップリング動作等覚えなくてはならないことは山積みである。次の動作を思い出そうとする人に対して先生は、マニュアルを追うのではなく「2回の息吹き込みに対して15回のマッサージのセットを5セットの基本動作をきっちりやること」と、自信がなかったら触らないというのではなく呼びかけやできる人を探すという役目もあるということを教えてくれた。

今回は残念ながら途中で退出しなければならず研修はここまでになったが大事の時、負傷者にまっすぐ近づいていける自信がついた。



その後、河内さんによる絵本を使った先入観・想像による判断についての話や「ジョハリの窓」を例にした話で、自分と他人の間で知らない領域を縮めることや自分を示し相手を理解すること、発想を柔軟にすることの大切さを痛感させられ多くのことを学ぶことができた。(山本補足)

## 8月の各イベント参加レポート

### 8/5 川崎防災キャンプ物資搬送訓練



報告：佐藤真澄、山本泰彦  
川崎災害ボラネット防災訓練に参加してきました。

午後2時に集合し、梶農園からのキュウリ、タマネギ、自家製まんじゅう等を御提供頂き、それらの物資を4台のバイクに積み込み、2時半頃に梶さん宅を出発し、会場である多摩川河川敷には3時過ぎに到着し、参加者の出迎えの中、物資を渡してきました。

その後、会場にてキャンプの内容を見学しました。

会場で行われていたイベントは次のようなものでした。

バックごとに分けられていたお顔頭(搬送物資)をバランス取りの材料として、傷病者搬送の練習(参加者)



・テント内で救急法の実演と練習(宇田川さんと参加者)

次の日、止血法の練習と心配蘇生法コンテスト(参加者)だったそうです。しばらく会場見学や防災キャンプのスタッフの方々と話を

したあと、午後4時過ぎにRB参加者は現地解散をしました。川崎の防災キャンプは来年以降、ボーイスカウトや青年会議所にも声をかけてもっと大規模にやりたいとの事でした。(植山さん、高坂さん談)

### 8/27 走ろう会富士方面ツーリング報告

報告：太田隆行、写真：神林邦彦

8月27日。当初は納車待ちで欠席予定であったが一昨日の晩、待望の納車となったため急遽参加することとなった。乗りなれないアフリカツインは信号待ちのたびに立ちゴケしないかと不安になる。

欠席予定の私は「遅れたら置いてきぼりになってしまう。…それにしても750CCは快適だ。フンフン。」などと思いながら走っているといつのまにか渋滞を過ぎていた。「もう誰か来ているかな。」目印の過積載シェルパはどこ?と見回すと、なんとベンチには欠席予定の鈴木さんも居るではないか!鈴木さん曰く「三宅島義援金を届けるため見送りがてら車で来ました」との事。ああ、頭が下がります。

中井PAより大井松田IC経由、県道78号を走り一気に足柄峠へ。足



柄峠・標高759Mのこの峠は鎌倉以前の古代関所があったという。神奈川の景勝50選に選ばれている。林道入り口を見て手塚さんの目が光る。

11:50出発。静岡側への下りは一転して視界が開ける。

富士山を一望、思わずスピードが緩む。滝が原を過ぎ富士山スカイラインに入ると肌が感じる空気が変わってくる。乾いて涼しくなってきた。更に上ると雲が多く低くなってきた。日差しが弱ると寒いぐらいた。そんな中、永山さんを加え9台となった一団は空腹を抱え西白塚PAで昼食とする。今回は自炊が基本。遅い昼食を終了後、更なる涼しさを求め



白糸の滝へ、緩やかなカーブが続く快適なロード。滝への道を降り歩きこと10分。富士の伏流水が溶岩壁から湧き出ているという白糸の滝。突然あたりはひんやり、不思議なものです。ひとしきりの

涼を楽しんだ後、最後の目的地、御胎内温泉を目指したが通り過ぎてしまう。来た道をまた戻るのも、というので、わさび平温泉へ向かう。と



ところがわさび平温泉は5月に廃業。今日の温泉は諦めよう。さらに246は大渋滞。道の駅山北に着いたのは5:40。山北では三宅島募金の提案を聞き、最終ミーティング。

神林BBより解散宣言。皆思い思いの帰路に着きました。

「標高」「水場」と涼しさの要素を実感した一日でした。

## いり2のコラムVol.5

いり2 (入佐俊明)



### 「施設で育ったやつ」

みなさんがお店のオーナーだったとして、施設で育った少年(少女)が「雇ってください」と面接を受けにきたらどうします？

きっとオーナーだったら採用を見送るのではないのでしょうか？

また初対面の少年(少女)が施設で育ったと聞いたらどうします？

きっと友達になるのを拒否するのではないのでしょうか？

施設で育ったやつはいろんなタイプがいると思います。

悪い事して入っているのかもしれない親に捨てられて他に身寄りも無く入っている場合もあるでしょう。

そんな知り合いが近くにいます。

根は良いやつだけど、口が悪いけど、愛敬のあるやつ。

そんなやつが、今まで働いていた会社が倒産して生活をするために次の職を探しました。

しかし、ほとんどのところが施設で育ったという理由だけで断られました。採用して仕事のやり方がまずくて、その時点でクビになるのなら納得できます。

しかしそんな事も見ずに施設で育った、それだけの理由で断るのはおかしいと思いませんか。

そんなこんなで、しばらくは収入が無いまま今までの貯蓄を食いつぶして生活していました。

毎日の様にいろんなバイトを探していました。

どこも同じ理由で断られました。本人は何にも悪くないのに。

その間は何日か食事をしていない事があったそうです。

そんなやつもどうにか職に就く事ができ、いまでは元気に仕事をしています。

「忙しい寝る暇が無いー」

と文句を言いながらも。

見た目や紙切れ(履歴書)で判断してしまう事も多いと思うけど実際付き合ってみるとそうでもないのです。

(中にはそうでもある事もありますけど)

施設出身というだけで、判断しないで、「広い目」で見てください。

コラムはいつでも募集中！次はなにかな？  
乞う御期待！

## 会報担当より

会報担当: 山本泰彦

今回、会報第8号発行させていただきましたが、夏の有珠山火山復旧作業ならびに被害を受けた方を応援する企画、イベントに参加、お手伝いしたメンバーのレポート、さらには現在全島避難という状況下にある三宅島支援情報を「夏休み特集」の増刊号として発行させていただきます。

各メンバーからのレポートはまさに災害が起きている現場での状況報告そのものでした。被害に遭った方の話、手伝いをしたこと、そして災害現場そのもの。とても生々しく、そしてそれは皆さんに伝えるべきものだと思います。またその現場に立ったメンバーの想いそのものが書かれているものばかりでした。

イベント自身は、身近にあるイベントとさほど変わらないものにうつるでしょう。でも被害に遭われた方にとっては、そこが唯一日頃の苦悩を忘れ楽しめる場だったのかもしれない。

今、有珠山、三宅島を中心に火山による災害、それに付随した被害が多く出ています。皆様のご支援、ご協力を宜しくお願いします。

「今」困っている方々のために。

「今」自分自身でできること、考えてみませんか？

神奈川R Bとして一人として。

## お問い合わせは

### 神奈川R B事務局

代表: 山田泰、事務局長: 矢代幸雄

郵送先: 〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862 (取次ぎ: レターケース No.81 宛て)

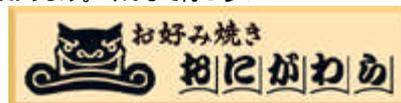
URL: <http://cools.com/kanagawarb>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川R B会報担当 山本泰彦

神奈川R B会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行こう！



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら

本場、関西・広島より取り寄せた原材料とソースをベースに「おにがわら風味」に仕立てあげた美味しいお好み焼きを御提供いたします。

店主: 中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel:0551-38-4030

J R小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンド八ヶ岳ホテル前

夏季(7・8月) 11:30 ~14:30、17:30 ~20:30

(火・水定休、祝日は営業)

上記以外の期間 11:30 ~14:30、17:00 ~20:00 (火・水定休)